

九、音の強弱 山彦遊び。

十、音の速さ(スタッカット)

椅子取り、まりかくし、音の汽車

十一、音の方向遊び

十二、名前あて

以上

これからの日本を背負って一歩々々前進して行つてくれる今日の幼児達が、やがて各自の力で建てるであろう音楽の殿堂を、砂丘の上に土台石を置かない様に、しっかりとした基礎工事をしてやりたいと考えて私は色々工夫しております。

## 幼児の相談事例について

愛育研究所

竹 田 俊 雄

主訴としては

友達と遊べない(五)

無口、幼稚園で話さない(九)

内気、はにかむ(六)

遅滞している(二)

知能程度(六)

就学、就園(六)

一人子の指導(一)

幼児の教育相談にあらわれた「社会性の乏しい子」について考察する。

この種の相談は昭和二十七年途中で愛育研究所で私が取扱った相談およそ六〇〇件中、三五件ある。年令は就学前のみをとり、またはじめから精神薄弱が主となつている事例は範囲外とする。

となつてゐる。

テストに対する反応は次のようである。

テスト不能 (一)

テスト場面に入りにくい (一〇)

反応がおそい (五)

小声で答える (二)

すぐ「わからない」という (五)

むずかしいと答えぬ (五)

ききかえすと答えぬ (一)

「かゆい」といひ出す (一)

ねむつたふりをする (一)

比較的よく反応する (三)

二

知能検査の結果は次のようである。

IQ	一三〇台	一
IQ	一二〇台	四
IQ	一一〇台	八
IQ	一〇〇台	一三
IQ	九〇台	四
IQ	八〇台	二
IQ	七〇台以下	一
IQ	不明	二
		九

この幼児のきょうだい関係を調べると、

	IQ 二〇台以上	IQ 一〇〇台	IQ 九〇台以下	計
一人子	四	一	三	八
長子	七	七	二	一六
末子	一	二	一	四
同性二子	〇	二	〇	二
同性長子	一	〇	〇	一
中間子	〇	一	〇	一
計	一三	一三	九	三五

また同居する祖父あるいは祖母の有無は次のようになつてゐる。

	IQ 二〇台以上	IQ 一〇〇台	IQ 九〇台以下	計
祖父あるもの	二	五*	三	一〇
祖父あるもの	〇	一	〇	一
祖母あるもの	六	〇	〇	六
計	八	六	三	一七

\*この中一人は祖父母を父母と子に呼ばせてゐる。

母はすべて有るが、父の死亡してゐるものは二、在外留学中のもの一、外人で帰国中のもの一である。

以上は統計的に考察したものであるが、これを個別的に見ると社会性の乏しい子は、知能の低い場合は、知能の低いことが劣等感を生じ、社会的な適応を困難にしていると考えられ、知能の普通以

上の場合は、一人子、長子、あるいは祖父母などの存在というような家族関係による周囲の態度が、子どもを過度に愛することとなりその結果子どもを自立させず友達等との交渉を乏しくさせて、社会性の発達を妨げていると考えられる。

(個々のケースについては省略)

## 年令別にみた乳歯ムシバ罹患程度

保育医学研究会

深 田 英 朗

### はじめに

従来乳歯はいずれ落ちる歯であると云う至極簡単な理由のもとにその存在は余り重要視されない憾みがありました。こうした傾向は私共歯科専門分野に於ても多分にあつたのであります。幼稚園保育園などの歯科衛生管理の実状はその表れの一つだと思われます。この点に關しては私は昨年本学会に於て発表致しました。ところが60年代以後小児期を対照といたしました歯科学的研究が相次いで表

れる研究 Helman Krogman による人種計測学研究、岩垣等の累年模型による研究等によつて乳歯の必要性と云うか、乳歯の持つ意義がだん／＼はつきりして来たのであります。つまり顎顔面が正しい成長発育を遂げるにはどうしても健康な乳歯の存在が必要であると云う事が分つて来たのであります。米國に於きましては今日小児期の歯科学は歯科学の中心的問題として真剣に研究され又社会的にホーサイス、或はグーゲンハイム等の小児歯科専門の診療所を中心として養護の手がさしのべられている状態なのであります。又ニューヨークに於きましては特に School dental nurse と云う専